

AGU 青山学院大学 NEWS

Vol. 19

AGUニュース第19号
[2003年10月～11月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



銀杏並木(青山キャンパス)

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

理工学部・ 理工学研究科の改組

AGU TOPIC
第1回青山学院「会計サミット」開催される!

TOPICS

パノフ駐日ロシア連邦大使講演会
国際マネジメント研究科NEWS
ジョン・ウェスレー生誕300年記念行事
クリスマス・ツリー点火祭 青山・相模原で開催

報告・お知らせ

2003年度もやります!!「青山祭」
2003年度給付奨学金・学業奨励賞

誌上公開講座

vol.19 幕末期の豪農と情報

INFORMATION

オープンキャンパス開催報告
高校1・2年生のための大学説明会



理工学部 理工学研究科の改組

2004年4月より理工学部では従来の物理学科を「物理・数理学科」、化学科を「化学・生命科学科」に、また、理工学研究科では5専攻を1専攻8コース制に改組します。今回は、改組する2学科について、理工学部長および両学科主任に聞きました。



理工学部長・理工学研究科長
魚住 清彦

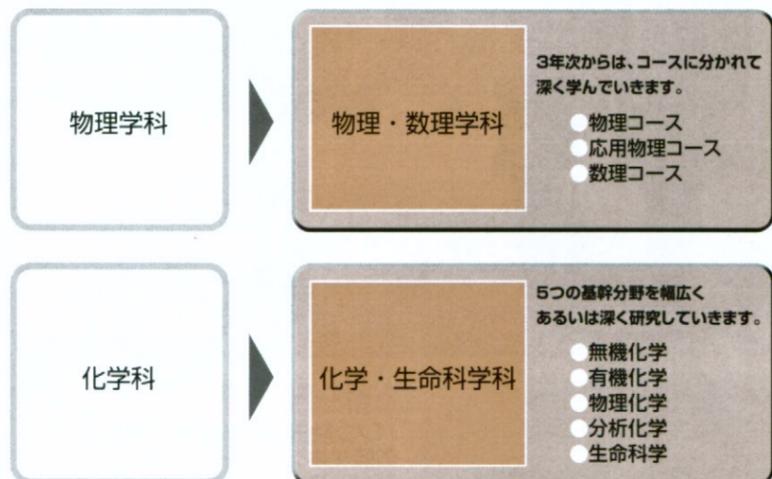
20世紀後半のサイエンス&テクノロジーの発展は、さまざまな境界領域を生み出しました。これらの新しい学問領域は、既存の学問をベースにしていますが、教育・研究両面で他領域とのコラボレーションが必要不可欠となっています。本学ではこうした学問領域の進化と新たな社会的ニーズに対応するため、2003年度に「文理融合型キャンパス」である相模原キャンパスに移転した理工学部および理工学研究科の改革を積極的に進めています。

2004年4月、「物理・数理学科」と「化学・生

命科学科」は、教育のコアとなる基礎教育の充実を一層図りつつ、21世紀の大学としての使命を果たすべく、最先端の境界領域をカバーしたわが国でもトップクラスの教授陣のもと、ハイレベルの教育研究を展開していきます。同時に1専攻8コースに改組される大学院理工学研究科（下表参照）で学ぶベースとなる知識を担う教育を行います。

新しい時代にふさわしい理工学教育をめざして……21世紀の「青学の理工」の挑戦は、まだ始まったばかりです。

理工学部・学科改組



電気電子工学科

機械創造工学科

経営システム工学科

情報テクノロジー学科

理工学研究科改組



物理・数理学科



理工学部物理学科主任
久保健

なぜ「物理・数理学科」なのか？

今、物理学の世界は、素材、物性、宇宙、生物、複雑系など多様な方向に急速な発展を遂げています。それに伴って新しい教育・研究のあり方、さらに研究成果を私たちの社会生活の中で生かすための応用手段の開発などが求められています。こうした物理学の発展は、数理科学に近い計算物理学にも新たな展開をもたらし、数理モデルの構築・解析が物理学を始め、さまざまな分野で、強力な研究手段として利用されています。一方、数理科学の分野においては、金融やコンピュータなど、身近なモデルに即した新しいタイプの教育研究の方法が模索されています。

「物理・数理学科」は、こうした社会的要請により現代の物理学と数理科学を統合した未来志向の学科です。物性物理、宇宙物理、高エネルギー天体物理、表現論、特殊関数論といった研究領域で、世界レベルの優れた研究成果を果たしてきたこれまでの実績を生かし、現代物理学・数理科学の最先端領域にさらに広く、深くアプローチしていきます。

「物理・数理学科」がめざすもの

本学科で学ぶ学生には、単に知識だけでなく、科学的な「考え方」や「方法論」をしっかり身につけてほしいと思っています。知識は、たとえそれが最新のものであっても数年後には時代遅れになることもあります。しかし考え方や方法論は、ほぼ普遍的な価値を保ち、あらゆる分野で生かすことができます。たとえば数理モデルの構築・解析をその方法論から理解していれば、未知の問題に対処することが容易になるでしょう。専門性はもちろん、物理や数学といった分野に縛られることなく、柔軟な発想でさまざまな問題に対処できる……そのような時代が求めるサイエンティストとしての資質を養成することが、本学科の大きな教育目標です。

「物理・数理学科」での学び

1年次から実験科目を設けたカリキュラムによって、物理学と数学独特の考え方を体系的に修得。2年次以降、実験や演習のウエイトが高くなり、3年次からは、「物理コース」「応用物理コース」「数理コース」の3コースに分かれて、より高度な専門学習に取り組みます。なお、改組される大学院には、本学科と関連の深いコースとして「基礎科学コース」「機能物質創成コース」「生命科学コース」があります。

化学・生命科学科



理工学部化学科主任
小野 勲

なぜ「化学・生命科学科」なのか？

原子や分子が集合したものは高分子と呼ばれ、遺伝子もタンパク質もその仲間です。それらが集まると細胞となり、細胞が集まって生体が構成されます。細胞は、きわめて精密に設計された“化学工場”といえるでしょう。そこでは非常に多くの化学反応が起こっており、それによって生体の活動がコントロールされているのですが、そのメカニズムについてはこれまでほとんど解明されておらず、いわば神祕のヴェールに包まれていました。しかし最近、ナノテクノロジーの発展などにより細胞内における分子の働きが次第に解明されてきています。そしてこうした複雑な生命現象へのアプローチには、単に化学の研究者だけではなく、医学、物理学、生物学、あるいは電気工学など幅広い分野の研究者との協力が必要となり、これまでの「化学」を超えた研究体制・環境が求められています。21世紀の社会は、生命科学の発展により大きく変わっていくことが確実視されています。理工学部化学科は、従来から生物化学を柱のひとつとした教育を展開してきましたが、こうした時代のニーズを受けて「化学・生命科学科」として新しく生まれ変わります。

「化学・生命科学科」がめざすもの

新しい学科では、生命科学分野の科目を大幅に充実させ、生命科学系の研究室として脳神経科学、遺伝子科学、海洋天然物科学、タンパク質科学の各分野を設置。人類の未来を拓く生命の謎に、化学をベースとした学際的な研究で挑戦していきます。また、バイオテクノロジーや遺伝子科学の発展により、生命倫理の問題がクローズアップされていますが、キリスト教を基盤に置いた本学の教育理念に鑑みて、「生命」に対して謙虚な態度で教育研究に臨むよう指導していきます。

バイオ関連など、生命科学の専門家が活躍する領域もますます広がっていますから、卒業生の進路も化学科時代以上に広がっていくことでしょう。

「化学・生命科学科」での学び

「無機化学」「有機化学」「物理化学」「分析化学」「生命科学」の5つの基幹分野を柱に、幅広い領域を学習するカリキュラムを編成。基礎から最先端領域までをカバーする多彩な講義と、学生が主体的に取り組む実験や考察を通して、一人ひとりが自分の専門分野に自主的に取り組むことができるよう指導していきます。改組される大学院には、本学科と関連の深いコースとして「化学コース」「機能物質創成コース」「生命科学コース」があります。



第1回青山学院「会計サミット」開催される!

2003年7月30日(水)、青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室において第1回青山学院「会計サミット」が開催されました。この「会計サミット」を企画され、当日は総司会を務めた東海幹夫経営学部教授に、開催の目的や当日の様などについてお話をうかがいました。

青山学院「会計サミット」開催の趣旨は?

東海 2003年5月、実に37年ぶりに公認会計士法が大改正されました。今回の「会計サミット」の目的は、この流れを受けて新しい時代が求める公認会計士を育成する会計専門職大学院(アカウンティングスクール)設置の意義を広く知っていただくことになりました。大学には現在、社会制度とリンクした教育が期待されており、その重要な方向性のひとつが専門職大学院です。現在、本学では、国際マネジメント研究科(ビジネススクール)、法科大学院(ロースクール、設置認可申請中)に続く、第3の専門職大学院としてアカウンティングスクールの設置を構想しています。すでに他大学でもアカウンティングスクール設立の動きが始まっていますが、まだその役割が十分に理解されているとは言えません。公認会計士とその教育をめぐる新しい動きを少しでも実感していただくことができれば、というのが開催した私たちの願いでした。



経営学部
東海 幹夫 教授

第1部の公開シンポジウムでは、パネリストとして行政、金融界、学会、公認会計士協会などから第一人者の方々に集まっていただき、それぞれの立場から報告を行い、活発な議論を展開していただきました。そして第2部「特別講演」では、自民党若手リーダーの一人である衆議院議員 塩崎恭久氏が講演を行いました。塩崎氏は会計・監査の問題や公認会計士教育に造詣が深く、実際に法改正に関わった国会議員としての興味深いお話をうかがうことができました。こうした各界のオピニオンリーダーと呼べる方々が、講演者、パネリストを快くお引き受けいただき、まさに「サミット」の名にふさわしい催しとなったと思います。

また、場所を青学会館に移して行われた第3部の「懇親パーティー&意見交換会」では、塩崎氏を含む多数の方々に参加していただき、シンポジウムとは違ったリラックスした雰囲気の中で、議論が弾んでいたことも印象的でした。

では、今回の公認会計士法改正の意義とアカウンティングスクールの役割について教えてください。

東海 会計＝アカウンティングは、治安、医療、福祉、教育、法などと並ぶ社会制度の根幹のひとつです。しかし、20世紀末にわが国の会計・監査制度への信頼は大きく揺らぎ、アメリカでもエンロンやワールドコムなどの会計不正事件がありました。この経済不安のなか、社会の根幹である会計が揺らいでいるのです。今回の公認会計士法の改正は、経済社会の構造改革の大きな流れのなかで、この社会の根幹である会計、あるいは公認会計士教育をしっかりとしたものを作り直すことを意図しています。これからの公認会計士には、単に財務諸表の監査をするだけではなく、広く

公共の利益に貢献するプロフェッションとしての役割が期待されており、活躍の場も企業だけでなく行政や地方自治の現場など、無限に広がっていくことでしょう。人員的にも、社会が現在より多くの公認会計士を必要と

するようになることは確実です。

今回の法改正によって公認会計士になるための試験制度も大きく変わります。従来1～3次まで実施していた試験が一本化され、新しく設置されるアカウンティングスクールの修了者はいくつかの試験科目が免除されることになります。これによりアカウンティングスクールでは、単なる試験に合格するための勉強ではなく、会計のプロフェッションとして重要な職業倫理や国際性などを身につけるための教育を十分行えるカリキュラムが整えられる予定です。また、教員スタッフには、社会で公認会計士として活躍する実務家が多数加わり、実践的な指導を行うことになります。

本学にアカウンティングスクールが誕生すれば、青山キャンパスにビジネス、ローと併せて専門職大学院のトライアングルが形成されることになります。わが国の大学でこの3つのプロフェッション教育を作り上げた例はまだありませんから、ぜひ本学で実現させたいと思っています。



衆議院議員 塩崎 恭久氏の特別講演

「会計サミット」は第2回以降も開催されるのですか?

東海 もちろん開催する予定です。第1回は、各界オピニオンリーダーが集結したイベント的な催しになりましたが、今後はアカウンティングスクール設立に向けて動き出し

ている大学の学長クラスの方々に集まっていただき、意見交換や研修を行うなど、専門職大学院設置に向けた具体的な問題を検討する場にしようとも考えています。……早ければ、年内にも第2回「会計サミット」を開催したいですね。

第1回青山学院「会計サミット」どう変わる!公認会計士の業務と試験制度—改正公認会計士法について考える—

日時:2003年7月30日(水) 13:30開場

場所:第1部・第2部/青山キャンパス総合研究所ビル12F 大会議室
第3部/青学会館ミルトス

総司会:東海 幹夫 経営学部教授

●開会の挨拶 半田 正夫 学長

●第1部 公開シンポジウム 公認会計士に寄せる期待と課題
—「会計専門職大学院」の果たす役割—

パネリスト

奥山 章雄 氏 日本公認会計士協会(JICPA)会長

金子 昌資 氏 日本証券アナリスト協会会長

羽藤 秀雄 氏 金融庁総務企画局企業開示参事官

平松 一夫 氏 国際会計研究学会会長・関西学院大学長

藤沼 亜起 氏 前国際会計士連盟(IFAC)会長

コーディネータ

八田 進二 経営学部教授

●第2部 特別講演 「公認会計士の役割と期待」

衆議院議員 塩崎 恭久 氏 自民党財務金融部会長

●第3部 懇親パーティー&意見交換会



公開シンポジウムパネリスト

「各国大使講演シリーズ」第1回 パノフ駐日ロシア連邦大使講演会 ——新企画「大使講演シリーズ」始まる——



アレクサンドル・パノフ駐日ロシア連邦大使講演シリーズです。トップの外交官を通じて各国事情や文化に触れ、パイプも作ることを目的としています。その第1回が7月15日(火)、パノフ駐日ロシア連邦大使を招いて青山キャンパスの総合研究所ビル12階大会議室で約240名の聴衆を集めて成功裡に行われました。また、講演の様子は相模原キャンパスにも同時中継され、100名を超える学生が聴講しました。

テーマは「ロシア大使の見た日本と現代世界」で、日露の経済協力、平和条約問題から文化のことまで、きわめて興味深く有益な内容でした。現在のロシア人が最も好きな作家が村上春樹氏だという話や、大使が皇后陛下と話したとき、ロシア詩人のマヤコフスキーやエッセーニンのことをよくご存知だったので驚いたという話も、興味をひきました。国際政治経済学部の小倉和夫教授(前駐フランス大使)が討論者として、国連問題などについて興味深いコメントを述べ、これも高い評価を得ました。

この企画は、当初は国際政治経済学部で発案されたのですが、大使講演は大学全体の企画に相応しい内容であるということで、大学のプロジェクトとして今後も継続して遂行することになりました。

また、このような興味深い催しを青山学院大学の行事として社会的にアピールするため、マスメディアとの連携を考え、内容を各国の外交官や特派員にも知らせたところ、『Japan Times』が喜んで共催者になり紙面を提供しようということになりました。この講演会には、朝日、毎日、読売、産経の各新聞社からも論説委員クラスのロシア通のベテラン記者が参加し、ディベートの時間には文化問題や北方4島でのコサックの領土返還反対運動についてなど、活発な議論が行われました。

大学全体の重要なプロジェクトとして、今後もこの企画を継続していきます。そして、今後の課題としては、学生が聞きやすいように、講演のあるときには授業への出席を配慮したり、各学部の科目と関連づけるなどの検討を行っていく予定です。

(袴田 茂樹 国際政治経済学部長(当日、司会)記)



国際マネジメント研究科NEWS

OECD/CERI「中等後教育・訓練におけるE-learningケーススタディ」プロジェクトに選定

国際マネジメント研究科「Global Classroom」は、文部科学省高等教育局の推薦により、OECD(経済協力開発機構)／CERI(教育研究革新センター)の「中等後教育・訓練におけるE-learningケーススタディ」プロジェクトのケーススタディ対象機関に選定されました。

このプロジェクトはOECD・CERIにおいて、IMHE(高等教育機関管理プログラム)と連携をとりつつ実施する予定です。対象となるのは北米、ラテンアメリカ、欧州、アジア地域の15～20機関で、日本で選ばれたのは本研究科と京都大学学術情報メディアセンターの2機関。E-learningで国外の学生も対象にした事業の提供を行っていることが条件となっています。国境を越えたE-learningに関して教育方法、財政面、組織面での取り組みに関し、機関レベルでの分析が行われます。

OECD/CERI「中等後教育・訓練におけるE-learningケーススタディ」プロジェクト(概要)

- 事業概要
 - ・本事業は、OECD/CERI(教育研究革新センター)において、IMHE(高等教育機関管理プログラム)と連携を取りつつ実施予定。
 - ・対象機関は、北米、ラテンアメリカ、欧州、アジア地域の15～20機関を予定とし、国境を越えたE-learningに関して教育方法、財政面、組織面でのような取り組みがなされているかを機関レベルで分析しようとするもの。
 - ・対象機関は、E-learningで国境を越えての事業の提供を行っている機関で、国外にいたる学生も対象としていくこと。
 - ・本年6月頃に送付される質問票に回答後、参加機関及び専門家による会合を開催予定。(旅費は各国負担)
 - ・本事業は、政府に対して中等後教育におけるE-learningイニシアティブをサポートするための良い方法に関する提言をすること、また実施機関においては、E-learningコースの開発・提供方法の良い実践例についての実証的情報を得ることを目的としている。
 - ・分析結果は、OECDの「中等後教育における国際化と貿易」に関する報告の重要な構成要素となる。

- 事業計画
 - 平成15年1月～3月 質問票の開発、実施機関の選定
 - 平成15年6月～9月 実施機関への質問票の送付及び回答
 - 平成15年10月～11月 回答の分析
 - 平成15年12月～平成16年3月 回答に基づく専門家及び参加機関会合
 - 平成16年4月～10月 中等後教育におけるE-learningケーススタディ例に関する報告書の準備
 - 平成16年11月 CERI運営理事会への報告書の提出
 - 平成16年12月～17年初頭 中等後教育におけるE-learningケーススタディの結果に関する普及会合

「国際マネジメント研究科外部評価評議委員会」開催報告

2003年6月28日(金)アイビーホール青年会館にて第3回外部評価評議委員会が開催されました。本学からは羽坂理事長、深町院長、伊藤研究科長、懸田専攻主任ほか数名の教員、文部科学省から3名の係官が出席しました。

外部評価委員としては、会長(再選)の岡村 正氏【(株)東芝取締役社長】、羽矢 惇氏【新日本製鐵(株)常務】、塙 義一氏【日産自動車(株)名誉会長】、小村 武氏【日本政策投資銀行総裁】、八城 政基氏【(株)新生銀行代表取締役社長】、村上 輝康氏【(株)野村総合研究所理事長】等、日本のトップマネジメント11名、国外からは米国、韓国、中国、シンガポール、ロシア等のビジネススクールのディーン(学部長)等7名が出席しました。

まず、羽坂理事長の開会挨拶があり、伊藤研究科長より2002年度の自己点検報告が行われ、別室で評価委員のみによる在学生8名とのインタビューが1時間30分にわたり行われました。それから18名の委員による評価委員会(本学関係者には非公開)、最後に会長より本学関係者が全体の講評を受けて終了しました。評価委員による当日の詳細な外部評価シートは近日中に研究科長のもとに送付されることになっています。

英国・オックスフォードで行われたジョン・ウェスレー生誕300年記念行事に 青山学院・深町正信院長が招待される。



院長
深町 正信

2003年6月21日(土)～23日(月)、オックスフォード大学リンカン・コレッジで開催されたジョン・ウェスレー生誕300年記念行事に、日本の教育関係者としてただひとり、青山学院の深町正信院長が正式な招待を受けました。同コレッジは、かつてジョン・ウェスレーがフェロー(研究員)として在籍した縁を持つ場所です。

そこで帰国された深町院長に、記念行事招待の経緯などについておかがいしました。

1998年7月に、私は会議のためオックスフォードを訪問し、当時リンカン・コレッジの学長だったアンダーソン博士と初めてお会いしました。アンダーソン博士はブレア英国首相の教育顧問を務められた方で、夫人は熱心なメソジストです。私はそのご家庭にも招かれ、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。その際に、600年以上の歴史を有する同コレッジ礼拝堂のステンドグラス修復のお話をうかがったのです。

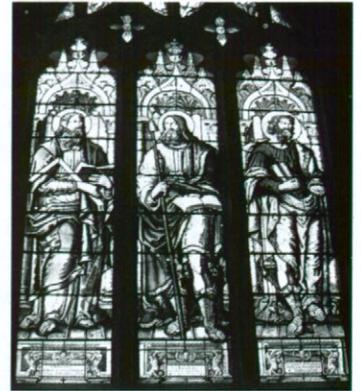


リンカン・コレッジ 校舎一部

青山学院は、ジョン・ウェスレーの信仰の流れをルーツとする米国メソジスト監督教会の宣教師が設立した3つの学校をその起源としています。折しも翌1999年に青山学院は創立125周年を迎えるとき、「学院としてジョン・ウェスレーへの感謝の気持ちを表すために、ぜひ修復に協力させていただきたい」と申し出ました。その後ステンドグラス一枚分の修復費600万円を国際交流センターの基金を利用して献金させていただくことになったのです。アンダーソン博士をはじめリンカン・コレッジの方々是非常に喜ばれ、修復が終了した後、コレッジの貴賓室に招かれ「International Associates」の称号を授

与されました。

そして今回、修復された見事なステンドグラスがある礼拝堂で行われた生誕300年記念式典の中で、ラングフォード現学長より、あらためて青山学院への感謝の言葉をいただきました。3日間にわたる同コレッジの記念行事の中では、対立関係にあったメソジスト教会と英国国教会が手を携え、ジョン・ウェスレーの功績を讃える記念のレリーフを除幕するという印象的な一幕もありました。ウェスレーらのメソジストは貧しい人々の救済などを旗印に、英国国教会に反旗を翻したとい



リンカン・コレッジ チャペルのステンドグラス



アンダーソン前学長夫妻と

う歴史的経緯がありましたから、これは歴史的かつ教会史的に大きな意味を持つ出来事なのです。

さて、本学でも生誕300年記念行事が始まりましたが、これを機に貧しい人々に希望を与え、マックス・ウエーバーなど社会思想家にも多大な影響を与えたジョン・ウェスレーの人と思想を、青山学院大学の学生にも深く知ってほしいと願います。

また近年、オックスフォードと青山学院の関係がより深まり、研究



藤村 和義 本学院理事(左)、ラングフォード学長(右)

者の交流などの新しい動きも出てきています。ウェスレーを仲立ちとして育まれたこの信頼関係を大切に、真に意義ある国際交流を展開していきたいと思っています。



ジョン・ウェスレーと青山学院

青山キャンパスの正門に入って、すぐ右側の総合研究所ビルの入口の壁面に、ジョン・ウェスレーの立像があり、像の下部には金文字で「John Wesley preaches love and peace in Christ for the world」と刻まれています。

1703年に英国リンカン州に生まれたジョン・ウェスレーの大衆伝道運動によって生まれたメソジスト教会は、「キリスト者の完全の教理」を説き、特に貧しい人々から大きな反響を呼び起こしました。ウェスレーの死後、1795年にメソジスト教会は英国国教会から分離し、米国で「メソジスト派」を設立しました。

青山学院は、このジョン・ウェスレーの信仰の流れをルーツとする米国メソジスト監督教会の宣教師が設立した3つの学校をその起源としています。

青山学院では、ジョン・ウェスレー生誕300年を機に、いくつかの記念行事を実施いたします。

●記念講演会

前日本銀行総裁 速水 優 氏の講演会が青山キャンパスでは10月21日(火)、相模原キャンパスでは、10月30日(木)に開催されます。

詳細は宗教センター事務局 TEL.03-3409-6537にお問い合わせください。

●記念演奏会

12月18日(木) 青山キャンパス・ガウチャー記念礼拝堂において、オックスフォード大学からニュー・カレッジ聖歌隊を招いて、記念演奏会を行います。ウェスレーの音楽はもちろんのこと、クリスマスの曲がたっぷり演奏されます。なお、相模原キャンパスでは、12月17日(水) ウェスレー・チャペルにおいて、「相模原キャンパス開学記念演奏会」として同聖歌隊の演奏会が行われます。



クリスマス・ツリー点火祭 青山・相模原で開催

イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間のアドヴェント（待降節）に入ることを心に刻むために、青山学院全体がひとつになって行われる礼拝が、クリスマス・ツリー点火祭です。2003年度は11月28日（金）の夕刻に青山・相模原両キャンパスで行われます。当日素晴らしい演奏を聴かせてくれる大学聖歌隊とハンドベル・クワイアの学生からのメッセージをお届けします。

大学聖歌隊

隊長
法学部法学科3年 松田健輔さん



私たち大学聖歌隊は、点火祭のほか、夏休み中には各地の福祉施設等への「演奏旅行」、定期演奏会、クリスマスコンサート（4年生主体）を行っています。昨年度の点火祭まで1～2年生が厚木、3～4年生が世田谷と2つのキャンパスに分かれて参加していましたが、今年度から全学年が相模原キャンパスの点火祭に参加することになりました。大学にとっても記念すべき点火祭がありますが、私たち大学聖歌隊にとってもひとつの節目。自分たちが点火祭を盛り上げるという意識を強く持ち、隊員一同、これまでに以上に熱を入れて練習に励んでいます。

ぜひ注目していただきたいのは、同じく青山学院宗教センターに所属するハンドベル・クワイアとのコラボレーションです。学内の宗教行事等と一緒に参加する機会が多いのですが、力を合わせて同じ曲を演奏するのは点火祭だけ。私たちの歌声とハンドベルの美しい音色が溶け合の中で、多くの方々に心ゆくまでイエス・キリストの降誕を待ち望む喜びを味わっていただきたいと思います。

ハンドベル・クワイア

隊長
法学部法学科3年 村上奈央さん



青山学院大学ハンドベル・クワイアは、学内外での礼拝奉仕やさまざまなイベントにおけるコンサート活動を中心に、12月のクリスマスチャペルコンサートへ向けて全員が週2回の練習日程で活動しています。演奏ジャンルは宗教曲だけではなく、クラシック、映画音楽、ポップスなど多彩なレパートリーを誇っています。

そして今年度は、開学したばかりの相模原キャンパスでの点火祭に参加することになりました。夜の澄んだ空気の中で、大学聖歌隊と一緒に会衆賛美の伴奏を行うほか、イエス・キリストの降誕を待ち望む1曲を奉仕する予定です。新しいキャンパスでたくさんの方々に演奏を聴いていただけることをたいへんうれしく、光栄に思い、一生の思い出となる演奏にしたいと、今からはりきっています。

ハンドベルの最大の魅力は何と言っても「音色」の美しさ。点火祭当日は、ライトアップされたツリーの幻想的な美しさとともに、アドヴェント（待降節）にふさわしい天使が舞い降りてくるような音色をお楽しみいただけるのではないかと思います。

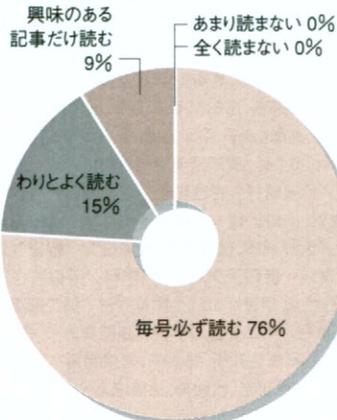
AGUニュースについてのアンケート結果（総評）

広報入試センターでは、AGUニュース第16号発送時にアンケートハガキを同封して、2002年度の3年生のご父母を対象に、AGUニュース関連広報活動についてのご意見を聴取しました（回答数114件）。下記に主な結果をご紹介します。

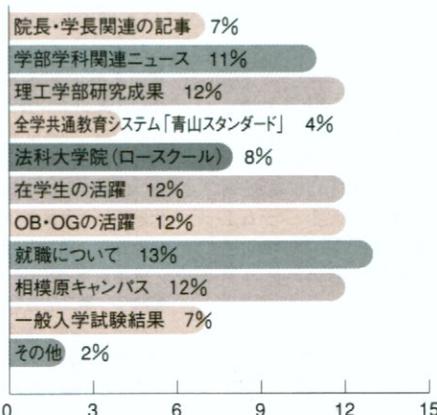
まず、AGUニュースの閲読状況については、「毎号必ず読む、わりとよく読む」を併せて91%の方に読まれています。今回の16号の記事内容についての評価は、「特集、報告・お知らせ、誌上公開講座、歴代院長とその時代」が興味を持って読まれているようで、また「表紙」は大半の方に好評でした。これまでのAGUニュースで印象に残った特集・記事としては、取り上げた10項目がほぼ同程度の結果で

したが、なかでも「就職について」が多く、続いて「在学生の活躍」「OB・OGの活躍」などの人物紹介と、「理工学部研究成果」「相模原キャンパス」などの大学の新しい動きに関する記事が関心を持って読まれているようです。これからの記事掲載希望については、「就職と進路情報」「教授や卒業生の紹介」「学生生活」などの特集を希望するご意見をたくさんいただきました。今後も、このような形で、読者のご意見を伺いながら記事内容や編集の仕方を改善していきたいと考えていますので、次回のアンケートの際には、一層のご協力をよろしくお願いいたします。

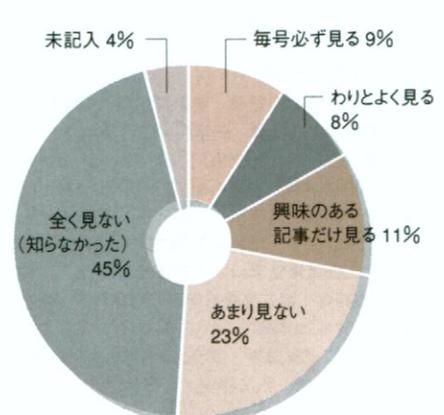
AGUニュースについて



印象に残った特集・記事



AGUニュースホームページについて



2003年度も「青山祭」 やります!!



2003年度青山祭は、10月31日(金)の前夜祭に始まり、11月1日(土)～3日(月・祝)に本祭が開催されます。今年度のテーマは「charity～意識の芽生え～」です。近年、日本でチャリティという意識ばかりが先行しているなかで、もう一度「charity」というものを見直そうという意図からこのテーマを選出いたしました。そこで、今年の

青山祭実行委員会では、青山祭においてひとりでも多くの来場者がそういった意識を高められるように、企画・運営面でさまざまな工夫をしています。前夜祭はじめ、講演会や中庭企画も昨年同様素晴らしいものになると思います。また、環境面でもリサイクルを中心として地球にやさしいイベントになるよう実行委員一同心がけています。今年も皆様のお越しを心よりお待ちしております。詳しい情報等、詳細を知りたい方は、ホームページをご覧ください。また質問等も下記アドレスにて受け付けています。



2003年度青山祭実行委員会委員長 奈良 隆佑(経済学部経済学科3年)
青山祭ホームページ <http://www.cc.aoyama.ac.jp/user/g-1041>
メールアドレス enjoy_aojitsu@hotmail.com

上級救急救命法講習会

課外教育プログラム(学生部主催)活動の一環として、7月2日(水)青山キャンパスにて本学学生48名が参加し、渋谷消防署および東京救急協会からの指導者5名による上級救急救命法講習会が開催されました。



講習会を修了すると、東京救急協会より認定証が授与されます。ボランティア活動を志す人にとって、認定証は災害ボランティア、国際ボランティア等に参加する場合に必要な条件となっていることがあり、意義のある資格とされています。

講習会当日は、朝9時より夕方5時まで一日をかけて実習を行い、前半は心肺蘇生法を中心に、後半は応急処置等に、熱心に取り組んでいる学生たちの自発的な姿が見られました。

相模原キャンパスにおいても、9月24日(水)に普通救急救命法、9月25日(木)に上級救急救命法の講習会が開催されました。

2003年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部・に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。また、青山学院大学大学院給付奨学金は、本学大学院に在籍する学生のうち、学業成績、人物とも極めて優秀と認められる者に対して学資金の給付を行うことにより、将来、社会および文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。

2003年度は、青山キャンパス(7月2日(水))において各キャンパス合同で授与式を開催しました。

〈給付奨学金・学部〉

教育学科/小谷真紀子 英米文学科/山崎智絵 フランス文学科/松永沙織
日本文学科/古屋歩 史学科/渡邊真理子 心理学科/木下卓 経済学科/大西万世、盛院毅、小田部海門 法学科/内海祐輝、中川裕加里 公法学科/宮澤良太 経営学科/伊藤由紀、須田祐樹、増田由妃 国際政治学科/松下麻衣、増淵美穂 国際経営学科/石田知子 機械創造工学科/内幸幸 経営システム工学科/水谷央子 情報テクノロジー学科/星埜雅子 第二部教育学科/余田英之 第二部英米文学科/大石香菜、鈴木真弓 第二部経済学科/藤田真理、三島綾子、崔純香 第二部経営学科/高橋和子、猪岡久美、鈴木恵美

〈給付奨学金・大学院〉

教育学専攻/安田順 フランス文学・語学専攻/中川貴文 経済学専攻/鎌田裕美、福原崇之 私法専攻/岡野武蔵 公法専攻/大谷美紀子 経営学専攻/

中尾麻衣子、藤井誠 国際経済学専攻/小林俊之 国際コミュニケーション専攻/山口律子 国際マネジメント専攻/杉山明、永峯英行 機械工学専攻/見目泰宏 経営工学専攻/藤田裕美子

〈給付奨学金・外国人留学生〉

日本文学科/李滿紅 経済学科/王吉春、崔今善、蔣宇澄、姜昭、高路琳 経営学科/于晓菁 国際経済学科/姜希叔

〈学業奨励賞〉

教育学科/相浦侑子、酒井しのぶ、山口友里子、鈴木麻美、松村亜希 英米文学科/佐藤綾、堂真理子、松井知子、後藤里美、篠原圭、成尾英利子、宮麻友子、池内裕美、須賀隆仁、宮川愛 フランス文学科/高坂裕美、福本久美子、菊地淳子、不破雪絵 日本文学科/足達香織、井口智恵、角田麻紀、中村詠美 史学科/原浩史、巖谷恵理、松村阿沙子、上町早紀 心理学科/近藤美美、札本桃子 経済学科/秋里有美、井上功、中村貴子、吉田紀明、萬智恵、坂本彩子、棚橋知里、藤林愛弓、増田行俊、栞、絹田大志、志、姜昭、藤野瑠美子、山賀絵梨、渡邊雄也 公法学科/石原亜寿佳 私法学科/大西麗、林哲史、福本健二、吉田理人 法学科/井田将敏、碓氷正志、栗原ゆり、黒柳美穂、館優子、宮本有紀、石田和代、今岡真麻、大高美香子、萩島香、宮内和美 経営学科/岡村武典、坪井由香、鳥海淑子、花淵恵美、藤田梨恵、李瑞鎮、鈴木麻美、千葉竜太、鄭妍、和田まり子、漆原恵理子、河川翔、長瀬くみ子、薬師太郎、谷島秀輝 国際政治学科/岩野飛鳥、久我まり、金子睦美、鈴木めぐみ 国際経済学科/梶原理恵、高本佳恵、中嶋綾香、楠侑利子 国際経営学科/伊藤晴祥 物理学科/新井麻利子、三部泰彦、志田晚化学科/赤井美奈子、今井俊雄、山崎正徳 電気電子工学科/角田陽一、鈴木貴博、吉川直樹 機械創造工学科/大野卓志、前澤那月、相澤圭介 経営システム工学科/都築政宏、齊田修平、小室達哉 情報テクノロジー学科/西山莉紗、面来道彦、百瀬綾子 第二部教育学科/石谷進、伊藤はるか、土井美紗子 第二部英米文学科/浅井聡子、友重剛、原雄介、守吉真弓 第二部経済学科/藤田貴美子、舟津麗子、山口貴近、川崎茂貴、住吉由子、吉田悟、福恵佐知子、札治子、吉成完司 第二部経営学科/遠藤和呼、塗師幸江、岡村光章、柿原正裕、牧原美、松橋速人

社会に開かれた大学として各種講座を開講

第1回「法務関係公務員特別教養講座」修了(警視庁渋谷警察署員対象)

去る5月8日(木)から7月3日(木)までの約2ヶ月間、毎週月曜日と木曜日に、青山キャンパスにおいて標記の特別教養講座が開講されました。

講座初日には、開講式が本部礼拝堂にて礼拝形式で行われ、深町院長による聖書朗読、祈祷、続いて半田学長および倉科署長の挨拶があったのち、受講者代表による受講にあたっての誓いの言葉が力強く述べられました。

この講座は、広く社会に開かれた大学として社会人教育に力を入れる本学と、市民感覚と専門知識を修得させたい渋谷署との意向が一致して開講されたもので、20代の若い署員を中心に総勢55名が受講しました。

講座は、署員からの希望が多く、また仕事に役立つものとして憲法、刑法、刑事訴訟法の3科目が用意され、午後6時30分から1日2科目、2時間の講義を行いました。講師は、本学法学部の教授が担当し、講師作成の専用テキストにより、毎回精力的な講義が行われました。夜勤のため、欠席者が毎回10名程度になるという厳しい環境でしたが、それぞれが時間を調整して出席し、真剣に聴講しておりました。

この特別教養講座で修得した専門知識が、署員にとって日常の仕事に大いに役立つことを期待するとともに、法務関係職業人のみならず学ぶ意欲のある多くの人々のために、本学の持っている知的財産を社会に還元していくことが、開かれた大学としての本学の使命であります。

(庶務部学長事務室長 樋口 孝夫 記)

●税務職員を対象とした専門講座を開講

東京国税局からの委託を受けて、本学において税務職員を対象にした「税務専門講座」を開講しました。本講座は、「新企業会計制度」「倒産法制の実務」「企業再編と新株式制度」の3コースを設けており、8月下旬から12月中旬までの間に各コース10回ずつ実施されます。

●弁理士を対象とした基礎研修を開講

日本弁理士会との共催により、本学において弁理士を対象にした「民法・民事訴訟法に関する基礎研修」を開講しました。本講座は昨年4月に弁理士法の一部が改正されたことを受けて行われるもので、「民法・民事訴訟法」に関する講義が8月より10月下旬までの間に全20回実施されます。

青山学院大学後援会報告

7月11日(金)、青山学院大学後援会評議員会がアイビーホール青学会館にて開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、教育研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、在学生のご父母等の保証人によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏ならびに地区別に開催される父母懇談会の開催諸経費から、職員の研修・教職員の福利厚生に対する支援等その内容は多岐にわたります。

評議員会(総会)は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および

2002(平成14)年度 大学後援会決算報告書

収入の部 (単位 円)

科目	予算	決算	差異
前期繰越金	28,407,178	28,407,178	0
会費収入	105,870,000	107,925,000	△ 2,055,000
利息収入	15,000	964	△ 14,036
雑収入	700,000	734,731	△ 34,731
合計	134,992,178	137,067,873	△ 2,075,695

支出の部 (単位 円)

科目	予算	決算	差異
学生活動関係			
学友会活動補助	24,500,000	24,077,697	422,303
学友会活動指導補助	13,500,000	13,390,000	110,000
保険料	9,000,000	8,285,076	714,924
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0
大学行事補助	5,500,000	2,332,649	3,167,351
アドバイザー・グループ会費補助	1,000,000	885,000	115,000
ゼミナール活動等補助	1,500,000	600,460	899,540
構内環境整備補助	10,000,000	10,000,000	0
奨励金	1,500,000	0	1,500,000
後援会行事関係			
父母懇談会費	25,000,000	20,620,787	4,379,213
印刷費	150,000	106,050	43,950
旅費交通費	100,000	68,916	31,084
会議費	1,800,000	1,397,332	402,668
消耗品費	100,000	0	100,000
通信費	100,000	42,700	57,300
教職員関係			
職員研修費補助	11,000,000	9,370,474	1,629,526
教職員福利厚生費補助	3,500,000	1,564,260	1,935,740
慶弔費	1,200,000	840,000	360,000
雑費	200,000	0	200,000
予備費	1,000,000	0	1,000,000
支出計	120,650,000	103,581,401	17,068,599
次期繰越金	14,342,178	33,486,472	△ 19,144,294
合計	134,992,178	137,067,873	△ 2,075,695

び決算報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員を選出が行われます。今回は、新会長に田坂信氏(ニフティ(株)取締役)、新副会長に串田邦夫氏(多摩市役所市民課長)、古木幸一氏((学)古木学園相模林間幼稚園園長)をはじめ、新任・継続あわせて94名の役員が選出されました。

評議員会終了後、青学会館において懇談会が開かれ、出席された役員の方々、本学院ならびに学長ほか大学教職員との交歓のひとつが持たれました。

2003(平成15)年度 大学後援会予算案

収入の部 (単位 円)

科目	金額	摘要
前期繰越金	33,486,472	
会費収入	105,810,000	会費収入内訳 第1部 @6,000円×16,170名=97,020,000円 第2部 @3,000円×2,930名=8,790,000円
利息収入	1,000	
合計	139,297,472	

支出の部 (単位 円)

科目	金額	摘要
学生活動関係		
学友会活動補助	24,500,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	14,000,000	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保険料	13,000,000	学生教育研究災害傷害保険
奨学金事業補助	10,000,000	奨学金への補助
大学行事補助	5,550,000	大学行事補助
アドバイザー・グループ会費補助	1,000,000	アドバイザー・グループ会費補助
ゼミナール活動等補助	1,500,000	ゼミナール活動補助他
構内環境整備補助	15,000,000	構内環境整備補助
奨励金	1,500,000	奨励金
後援会行事関係		
父母懇談会費	23,000,000	首都圏及び地区別父母懇談会開催諸費用
印刷費	150,000	役員名簿・決算報告書印刷費
旅費交通費	100,000	事務連絡交通費
会議費	1,800,000	評議員会・懇親会費用
消耗品費	100,000	事務用消耗品
通信費	100,000	役員会・評議員会通信費
教職員関係		
職員研修費補助	11,000,000	職員研修費補助
教職員福利厚生費補助	3,500,000	教職員同好会補助他
慶弔費	1,200,000	教職員等の慶弔費用・学友会関係祝金
雑費	200,000	各校友会支部との懇親会補助他
予備費	12,097,472	
合計	139,297,472	

2003年度 就職関係行事

行事	対象者	日程	備考
外資系企業セミナー	学部3年生	10月20日(月)	外資系企業への就職についてのセミナー
ファッションビジネスセミナー	学部3年生	10月22日(水)	アパレル業界への就職についてのセミナー
Uターン就職セミナー	学部3年生	10月23日(木)	Uターン就職についてのセミナー
女子学生セミナー	学部3年生	11月8日(土)	各業界で活躍するOGを招いてのパネルディスカッション
4年生体験報告会	学部3年生	12月1日(月)・2日(火) 4日(木)・5日(金)	就職活動を終えた4年生との懇談・質疑応答
第二部学生向け就職体験懇談会	第二部1~3年生	11月7日(金)	就職活動を終えた4年生との懇談会
第二部学生向け職業・興味適性テスト	第二部1・2年生	11月8日(土)	卒業後の進路を考えるための意識づけとして実施
自己分析・エントリーシート対策講座	学部3年生	10月29日(水)・12月6日(土)	エントリーシートの書き方を講義し、実際に書いたシートを添削(有料)
職業適性検査解説ガイダンス	学部3年生	10月22日(水)~	職業適性検査を受けた学生に結果の見方をガイダンスします。
模擬試験	学部3年生	11月12日(水)・12月13日(土) 11月26日(水)・12月20日(土)	一般常識テスト(有料) SPI講座・SPIテスト(有料)
学内企業セミナー	学部3年生	11月5日(水)~12月20日(土)	各業界の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会
公務員ガイダンス	学部1・2年生	12月3日(水)	公務員の仕事、採用試験についての説明会
公務員試験体験報告会	全学年	12月3日(水)	公務員試験合格者との懇談、質疑応答
公務員採用説明会	学部3年生	12月1日(月)・2日(火) 4日(木)・5日(金)・8日(月)	各種公務員の採用担当者による説明会
社会保険労務士説明会	全学年	12月3日(水)	社会保険労務士についての説明会
理工学部生・大学院生対象			
第1回SPI模擬テスト	学部3年生・院1年生	11月5日(水)	受験料1,200円 申込は進路グループへ
一般常識対策テスト	学部3年生・院1年生	11月19日(水)	受験料1,000円 申込は進路グループへ
第2回公務員ガイダンス	全学年	11月26日(水)	資料配布有り
第2回就職講演会	学部3年生・院1年生	11月26日(水)	採用コンサルタントによる講演会
職業・興味適性テスト	学部1・2年生	12月3日(水)・6日(土)	将来の進路を考える意識づけとして、1・2年生対象に実施 申込は進路グループへ
第1回エントリーシート対策講座	学部3年生・院1年生	12月3日(水)	資料配布有り
第1回面接対策講座	学部3年生・院1年生	12月10日(水)	模擬面接実施
業界研究会(合同企業説明会)	学部3年生・院1年生	12月中旬	各業界の採用担当者を招いての説明会
第2回就職ガイダンス・内定者報告会	学部3年生・院1年生	12月17日(水)	就職内定した理工学部4年生・院2年生の活動体験を聞く会
第2回SPI模擬テスト	学部3年生・院1年生	2004年1月14日(水)	受験料1,000円 申込は進路グループへ
人文・社会科学系学部生対象			
就職体験懇談会	学部1・2年生	11月19日(水)	就職内定した人文・社会科学系学部4年生の活動体験を聞く会
第2回公務員ガイダンス	全学年	11月26日(水)	資料配布有り
職業・興味適性テスト	学部1・2年生	12月3日(水)・6日(土)	将来の進路を考える意識づけとして、1・2年生対象に実施 申込は進路グループへ

*追加、変更等もありますので、詳細は必ず掲示板にて確認してください。

Club & Circle Information 2003年度主要活動予定(2003年10月~12月)

- *主な体育連合会・文化連合会の活動予定。
大会等の日程は予定のもので、今後変更になる可能性もあります。
- オラトリオ・ソサエティ合唱団 KAY合唱団第108回定期演奏会(12月)
 - ギターアンサンブル 定期演奏会(12月)
 - グリーンハーモニー 定期演奏会(11月)
 - 広告研究会 ミス青山コンテスト(11月)
 - 箏・尺八研究会 第41回定期演奏会(11月)
 - 長唄同好会 第57回学生長唄連盟定期演奏会(12月)
 - ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 第35回定期演奏会(12月)
 - リズムマンドリーノ 定期演奏会(12月)
 - アイススケート部(ホッケー部門) 関東大学アイスホッケーリーグ戦(10~12月)
 - アイススケート部(フィギュア部門) オール関東フィギュアスケート選手権大会(11月)
 - アメリカンフットボール部 秋関東アメリカンフットボールリーグ戦(9~11月)
 - 空手道部 全日本大学空手道選手権大会(11月) 全日本空手道選手権大会(12月)
 - 拳法部 全日本大学選手権(12月)
 - 航空部 関東学生グライダー競技会(12月)
 - 硬式庭球部(女子) 関東大学対抗テニス選手権大会(11月)
 - 硬式野球部 東都大学野球秋季リーグ戦(9~10月)
 - 卓球部 全日本学生選手権大会(男子11月、女子11~12月)
 - 軟式野球部 東日本大学軟式野球選手権大会(11月)
 - 馬術部 全日本学生馬術選手権大会(12月)
 - バスケットボール部(男子・女子) 全日本大学選手権(11月)
 - バレーボール部 全日本インカレ(男子11月、女子12月)
 - パワーリフティング部 関東学生パワーリフティング大会(12月)
 - ハンドボール部 関東学生秋季ハンドボールリーグ戦(9~11月)
 - ヨット部 全日本学生ヨット選手権大会(11月)
 - 陸上競技部 東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(10月)

News Index 2003.07~09
WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2003年7月上旬~9月下旬までの主なタイトルを掲載しています。

03年7月

- H. スガナミ英国キール大学教授による記念講演のお知らせ
- 第10回青山学院大学同窓祭のご案内
- NHKラジオ第2の文化講演会で本学公開講座
- 青山学院大学公開講座「フランスを知る—文学と歴史の諸相—」のお知らせ
- 青山学院大学公開講座「江戸時代における情報と変革」のお知らせ
- 第19回オール青山ハンドベルコンサートのお知らせ
- 空手道部 諸岡奈央さんが「全日本学生空手道選手権」で4連覇達成
- 「第6回蓄熱の集い」で青山学院に感謝状
- 青山学院大学WTO研究センター主催研究会「WTOと日本企業」開催のお知らせ
- 大学院理工学研究科大野真信さんが財団法人C&C振興財団の助成者に採用される
- 清里サマー・カレッジのお知らせ
- 青山学院創立130周年記念行事「統一テーマ」および「ロゴマーク」を募集
- 青山学院大学法科大学院開設に向けて設置認可申請中
- 第2回青山学院大学法科大学院説明会のお知らせ
- 落語研究会による「昼休みお笑いライブ」のお知らせ
- 青山学院大学公開講座「国際社会の見方」のお知らせ

03年9月

- 第19回センシングフォーラムで大学院生が「研究・技術奨励賞」を受賞
- 理工学部電気電子工学科 橋本 修教授グループ、無線LAN対応の壁紙設計法を開発
- 日本監査研究学会第26回全国大会が開催される
- 青山学院大学公開講演会「国際社会の見方」のお知らせ
- 相模原祭・りこうがくぶ公開のお知らせ
- 青山学院大学聖歌隊「第22回定期演奏会」のお知らせ

WEEKLY AOYAMAアドレス <http://www.aoyama.ac.jp/agu/news/weekly.html>

幕末期の豪農と情報

岩田 みゆき
文学部史学科助教授

1982年青山学院大学文学部史学科卒業、お茶の水女子大学大学院人文科学研究科史学専攻修士課程修了。博士(人文科学)。専門分野は日本近世史・幕末社会史。神奈川大学日本常民文化研究所専任職員を経て、2003年に青山学院大学文学部史学科助教授に就任。

近世から近代への移行を社会構造の転換とみるならば、幕藩制社会を根底で支える社会的基盤すなわち生産の場である村や村人の生活が江戸時代を通じてどのように変質していったのかという点にまず注目しなければなりません。それは、社会を変質させる最も大きな要因が前近代においては生産の主要な場である村の生産・流通の変化にあるからです。特に幕末維新期の社会構造の変化は、商品流通の発展、資本制の商品生産の形成に求められます。こうした新しい経済制度の展開は、17世紀後半から畿内を中心として徐々に進行し、18世紀後半に到って全国的展開をみせ、幕藩制社会を急速に変容させていきました。この18世紀後半における村の変質の過程で新しい商品生産と流通の担い手として登場してきたのが豪農です。彼らは、地主・商人・高利貸の性格を併せ持ち、多くの場合、村役人を兼ねる村落上層民であり、村や地域の政治・経済・文化を中心的に担う存在でした。

ところで、豪農はその性格から、必然的に村における政治・経済・文化・社会諸側面における情報の中心的担い手としての成長をとげていたと考えられます。例えば新しく始めた商品生産者としての技術や商品市場などの情報を入手する能力、市場の変動にかかわる災害、社会情勢、さらに政治情勢に関する情報を収集し、自らの経営判断、政治判断の材料とするために、情報能力を高める必要があったと思われれます。また、その社会的地位に見合った教養を身につけるための文化情報などを収集し、その能力を高める必要もありました。その高い教養と経済力は、時に村人からの尊敬をうけて名望家とよばれるものもあり、村人の結婚や就職、村人の間に起きた争いごとの仲介役など、村の世話役として活動するものも多かったのです。

このように、村の中で情報を受信し、しかも発信する主体が形成されるということ、またそ

れが地域の中で情報の結節者となり、領主支配にかかわりない広がり地域ネットワークを形成していくということは、本来情報の領主階級による独占と縦割り行政を基本とする幕藩制社会の基盤を根底から揺るがす動きとして注目できます。

こういった豪農たちの情報活動をささえていたのが、彼らが成長の過程でつくりあげた政治・経済・文化諸側面における多様な人的つながりです。彼らは豪農商層や神主など同一階層間で文化サークルを結成し、勉強会や情報交換をし、また取引先の商人と頻繁に手紙のやりとりを行い、相場などの経済情報や社会情勢に関する情報を入手しました。さらに国学や漢学などの学問整への入門を通じて多くの学者と交流をしつつ思想的影響を受け、さらに婚姻関係等を通じて学者・武士などと身分制の枠を越えた幅広い人間関係を形成しました。彼らは、このような関係を通じて、経済活動を有利に展開するとともに、本来百姓という身分では知るよしもない情報までもいちはやく入手することができたのです。

たとえば、嘉永六年・七年(1853・54年)両年のペリー来航は、全国的規模で武士のみならず一般の庶民に到るまで衝撃を与えた事件でしたが、この事件に関する情報は、いちはやく豪農のもとに届いていました。また自らも情報収集活動を行い、巷のうわさから幕府の機密情報にいたるまで、膨大な情報を迅速に収集し、記録を行いました。北関東のある豪農の事例でみると、その収集情報の中には、出入りの商人や旅先の旅籠屋や店屋の主人、村人から聞いた話、瓦版や手紙の写し、川柳や狂歌の写しなど、巷の情報もみられる一方、ペリー一行の上陸と応接の詳細な状況、幕府役人や諸大名の状況、外国から来た書簡の写など、一百姓がとても入手できそうもない情報までも含まれています。そして、これらの情報は同じ意識を共有する人々の間で回覧され、情報交

換されました。このような情報の回覧活動は、村落上層民の限られた人々の間で行われましたが、その情報提供者の中に、巷のうわさなどについては、出入りの商人や、一般の村人も含まれているところからみると、地域において政治や経済・社会の動向に関心をもち議論する環境が徐々に整えられつつあったことも確かです。

さらに幕末の政治情勢の中では、政治事件に関する情報の収集も積極的に行っています。たいていの豪農は村にあって情報に注意をむけながら、時勢の推移を見守っていたのですが、豪農の中には、草莽の志士(幕末に在野で政治活動をした人々)たちの活動の資金援助をするものや、家族の中から草莽運動に身を投じるものも多く出てきました。このような豪農の政治意識の高まりと、豪農の身分制の枠をこえた人間関係の形成、および地域における情報の拠点あるいは結節者としての成長とは無関係ではありません。

このような人材が、村落上層民とはいえ、幕末期の村の百姓身分のものの中に育成されていたということ、しかも幕末期に層として登場してきたということが、幕末の内憂・外患といわれる政治・経済・社会の変動の中でも村や地域が守られてきた大きな理由ではないでしょうか。



オープンキャンパス開催報告

2003年度オープンキャンパスは、7月20日(日)および9月13日(土)に青山キャンパスにおいて開催されました。7月は10,244名が、9月には3,936名が来場しました。総来場者数は過去最高の14,180名となり、本学の人気の高さがうかがえました。本年度は「全学共通教育システム『青山スタンダード』概要紹介」や「在学生によるEnglish・Speaking・Live!」などの新しい企画を取り入れたり、「吹奏楽パトントワリング部」「応援団」「チアリーディング部」「ハンドベルクワイア」「アナウンス

研究会」「English Speaking Society」などの学生団体をはじめ、各学部学科の紹介や模擬授業、および受付や案内誘導などをボランティアで手伝っていただいた学生など、たくさんの在学生・教職員の協力を得て実施いたしました。

なお、7月26日(土)には、青山キャンパスにおいて、社会人を対象としたオープンキャンパスも開催、470名(昨年度391名)が来場しました。キャリアアップをめざす向学心の強い方ばかりで、充実した説明・懇談が実施できました。



受付では各種資料を配布



在学生による English・Speaking・Live!



満員の法科大学院説明会



半田学長と1万人目の来場者

オープンキャンパス入場者数推移



高校1・2年生のための大学説明会

高校1・2年生の早期より、本学への進学を希望している高校生とその保護者を対象にした大学説明会を開催します。

日 時:2003年11月9日(日)

10:00~16:00(予約不要、入退場自由)

場 所:青山キャンパス

開催内容(予定):歓迎礼拝/パイオルガンコンサート/保護者を対象とした大学ガイダンス/全学共通教育システム『青山スタ

ンダード』概要紹介/大学紹介/入試概要紹介/大学紹介ビデオ上映/資料閲覧/資料配布(大学案内パンフレット等)/個別進学相談/リスニング試験体験/青山学院史資料展示/在学生による合格体験トークライブ&懇談会/在学生によるEnglish・Speaking・Live!/学生団体によるアトラクション等

※詳細な企画内容および時間は、大学ホームページをご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/daigaku/>

歴代院長とその時代



いしざかまさのぶ 石坂正信

第5代院長(1921~1933年在任)

1923(大正12)年9月1日——関東大震災。東京市内は瞬時にして火の海と化し、青山学院でも新ガウチャー・ホール(中学部校舎)や勝田ホール(高等学部校舎)などレンガ建ての建築物はすべて倒壊しました。神学部時計台も石坂院長の目の前で崩れ落ちていきました。この時、当時中学部長の職にあった阿部義宗とともに被災者の救済にあたり、震災後の青山学院復興に寝食を忘れて東奔西走した石坂は、齢63の老体を押しして渡米。メソジスト監督教会からの資金募集に尽力し、これにより全米のメソジスト教会の日本援助復興費募金運動も盛んになりました。



米国訪問より帰国した院長



勝田ホール訣別式

この募金の一部が青山学院の復興資金にあてられ、再建を契機に青山学院と青山女学院の合同計画も実現。約3,000人の生徒を擁する青山学院としての地歩を築きました。

1860(萬延元)年に生まれ、横浜美會神学校に学んだ石坂の生涯は、常に青山の発展とともにあったといえるでしょう。1934(昭和9)年に74歳で永眠するまでの大半を青山で過ごした石坂は、学院構内の一木一草に至るまで知り尽くしていたといわれています。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュー

スを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口

青山キャンパス→学生部厚生課

相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>
広報入試センター広報課●2003年10月17日発行●